

## 介護士、ヘルパーの労働現場から見る高齢者問題を学習

神奈川シニア 事務局長 加藤 照雄

JAM神奈川シニアでは、高齢者福祉問題を考える視点を変えて、介護の現場で働かれている方々の立場で講演を依頼。講師には介護従事者が会社や雇用形態の枠を超えて結集した労働組合「日本介護クラフトユニオン」から染川事務局長をお招きした。

講演会は、5月18日(金)神奈川県労働文化センターの会議室に幹事、各シニアの代表30名余りが参加した。介護保険制度は2000年4月に施行され18年が経ち様々な課題に直面している。これらの問題を過去1年間の新聞記事のコピー等でまとめられて講演された。

高齢者の内、75歳を超える高齢者が半数を超え、2018年3月には1770万人に達している。高齢化でサービスの需要は増えるが介護の担い手が減少、訪問介護などは人手不足で在宅介護どころではなく、特養の増設も、介護報酬の引き下げで事業者の採算が悪化、介護職員を確保できずに、新規の増設どころか受け入れ制限をしなければならない状況に追い込まれている。

介護職員は仕事へのやりがいを持っているものの、給与実態が改善されず人材不足の改善につながっていない。介護職員の待遇を一般労働者並みに改善し介護職員を確保しなければならない。介護士やヘルパーの方々の労働現場の状況を改善することは、優秀な介護士やヘルパーの方々が集まり、介護利用者への介護内容が良くなる。「保険あってサービスなし」、現状のように人手不足が続けば、介護保険制度が成り立たなくなると講演された。

JAM神奈川シニアでは、神奈川県連合への政策制度要求として、①地域包括システム構築に対して、現状は地方自治体の政策が追い付いていないことが明らかになっており、要支援1・2の総合事業移管に反対する。②総合医の育成と訪問診療医の普遍化、かかりつけ薬局制度の確立。③老々介護の限界による殺人事件の発生が多くなり、解決には特養の増設が必要。との3点の要求をしている。



